

## かがわ里海聞き書きプロジェクト web 報告書 vol.3

### 「世界の海を知る栗島の船乗り（三豊市）」

---

●インタビューを受けてくれた名人

山北友好さん（84歳）（栗島 元外洋航路船員）

●インタビューした人

西川喬章（香川高等専門学校5年生）

（取材日 2015年10月20日 場所・香川県三豊市栗島）

---



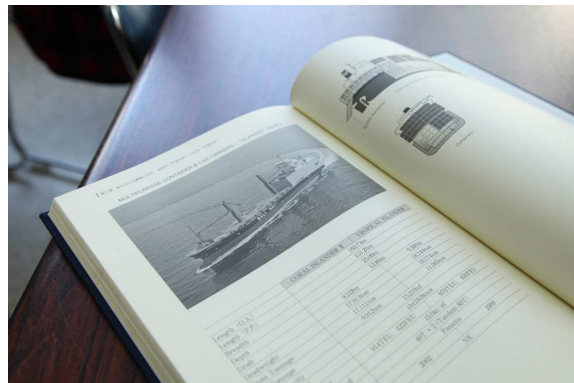
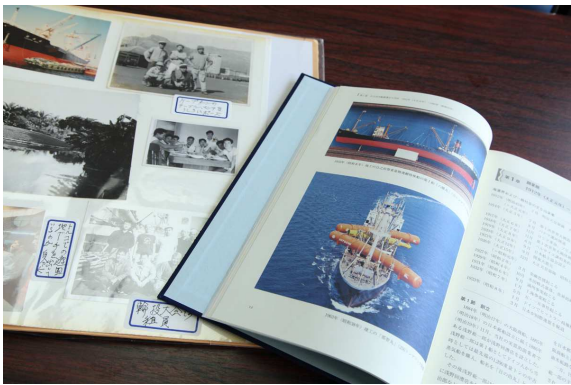
日本初の国立海員学校がシンボルの栗島。元外洋航路船員の山北友好さんへのインタビューは、参加者・西川さんのたつての希望で実現しました。



西川さんが以前にも栗島の元船員さんに取材したことがあるということと、山北さんが船員時代の写真アルバム、資料などを用意してくださったことで、私たちの知らない昔のお話も理解しやすく、インタビューもスムーズに進行しました。



21 歳から 54 歳まで船に乗っていた山北さん。アルバムや本など資料をたくさんご持参いただきました。



瀬戸内海の小さな島粟島から多くの船員さんが海外へと旅立った話。船員としての技術や航海術をどう学んだか。

船上での暮らし方や世界の国々の風景や暮らしぶりなどを伺いました。そこから見えてきたのは、当時の人たちがどのように海と関わってきたのかということ。



インタビューの最後、山北さんは「日本は海があつての国やからね。海をもっと大事にせなあかん。若い人がもっと船乗りになって、我々が作ってきた伝説をなくさないでほしい」という言葉でしめくられました。



香川は瀬戸内海と切っても切れない関係です。海とつながる生活は、海を意識し、海を大事にすることと同じなのだと思います。瀬戸内海から世界を見る視点が養われたことを伺うことで、私たちも広く視野を持てるようになりたいと思った取材となりました。